男子バスケ

駆け上がれ1部へ!!

関東大学L

入れ替え戦進出もあと一歩

3年ぶり復帰へ 粂川監督手応え

あと一歩届かなかった。その一歩の差を埋め、関東大学リーグ1部に駆け上がるシーズンとする。男子バスケットボール部は入れ替え戦で敗れた昨季の経験を基に、3年ぶりの1部復帰を目指す。粂川岳勲監督は「入れ替え戦に進出できたのが最大の収穫だった。負けた要因を追求して、あと一歩をつかめるような努力をすれば、届かない目標ではない」と手応えを口にする。

ドリブルで攻め上がる梶谷㊧高いポテンシャルを秘めるチノンソ（手前左）

フィジカルで勝つ!!

「チームづくりが難航した」と粂川監督が振り返るように、昨年はメンバーが万全の状態でそろうことが少なかった。神奈川大との入れ替え戦は善戦したが、コンディション不良の影響があったのも事実だ。主将の梶谷崇太（経営社会4年、広島皆実高）は「けがとか体調不良とかで人がいなかったことがあったので、まずはそれがないように、チーム全員で準備していきたいと思う」と話す。

江戸川大学は、当たり負けないことや、走り続けることなど、フィジカルなプレーで負けないことを信条としている。それだけにコンディショニングが特に重視される。チームとして高い強度を保ちながらリーグ戦を戦い続けるには、個々がフィジカル面で好調を維持し続けるようにするしかない。

ブレークが期待される川畑

主将・梶谷がけん引

新チームの軸となるのは、チーム信条を体現するひたむきなプレーが持ち味の2人、梶谷とアデッツ・デイビット・アラバ（経営社会4年、和歌山南陵高）だ。粂川監督は「安定した力を発揮できれば1部相手でも通用する」と期待する。また下級生には「1部でも通用するポテンシャルがある」とブレークが期待される川畑嵐（経営社会2年、埼玉・昌平高）、柳澤幸大（経営社会2年、埼玉平成高）、小野恵富（経営社会2年、千葉・長狭高）、ボヌ・ロードプリンス・チノンソ（経営社会2年、静岡・藤枝明誠高）の4人が控えている。

〝王者〟と善戦自信に

新チームで最初に臨んだ天皇杯セカンドラウンドでは、昨年のインカレ王者、白鷗大学を相手に前半でリードするなど接戦を演じた。「白鷗大学は天皇杯にそこまでの力を向けていなかった」としながらも、粂川監督は「思い切ってプレーすることで1部に対しても爪痕を残せるという経験が得られた」と語る。

1部の大舞台に帰るための土台は整っている。

専用トレーニング室で日々鍛えてます!!

私の自慢の筋肉

当たり負けないフィジカルなプレーが持ち味の男子バスケットボール部は専用トレーニング室を持つ筋トレ軍団だ。その中でも極めつけにフィジカルな人たちは…。皆さん、素敵な筋肉をありがとうございます！

【上腕】

アデッツ・デイビット・アラバ
経営社会4年
和歌山南陵高

後輩から「腕すごい」

テレビで見たプロ選手が大きく、バスケットボールを始めた時に「もっと筋肉をつけるのが大事」と思ったという。試合ではリバウンドを競って取ったときに、筋肉が生きたと感じる。チームメイト、特に後輩からは「腕すごい、とよく言われます」。

【胸筋】

橘　慶竜
経営社会3年
島根・出雲北陵高

服を破きたい

「服を破きたいっすね」と分厚い胸板にまだ満足してないようだ。本格的に鍛え始めて1年ほどで周りから「でかい」と驚かれるほどのサイズになった。試合で生きる点について「ないですね…」と歯切れ悪いが、そんなわけはない。全てに役立っているに違いない。

【広背筋】

ティン・ニャット・ティエン
経営社会3年
茨城・土浦日大高

男は背中

「やっぱり男は背中かな」と広背筋を鍛えたところ、ジャンプ力が向上してBチームからAチームに昇格。筋トレ効果を実感している。筋トレに打ち込んでいると仲間から「バスケしろって言われます」とのことだが、筋トレしているからこその実力なのだ。

【ふくらはぎ】

竹村　勇祐
経営社会2年　静岡・飛龍高

筋トレはやり過ぎない

筋トレは「やり過ぎないように」と言いながら「バスケで勝手についた」という発達したふくらはぎが際立つ。小1でバスケを始め、小学校のころ既に周りよりもふくらはぎがしっかりしていたという。ディフェンスでの鋭い反応は、大きなふくらはぎが生み出す。

編集後記

女子バスケ部担当

荒木慎之介　何気なく目にするスポーツ新聞だが、作るためにインタビューに協力してもらったりと多くの協力が必要だと分かった。

松崎航大　初の新聞制作で女子バスケを取材し、現場やチームの雰囲気を新聞にして伝えるという貴重な経験になった。

バレーボール部担当

竹森公紀　今回の取材で、監督・選手全員が「レシーブでつなぐ」ということにおいて意識が高く、そこに強さの秘けつが詰まっている事を理解した。

大場咲彩　早稲田大戦の取材で、追い上げる粘り強い選手らの奮闘を見て、スポエドの取材で終わらずこれからも応援したいと思った。

サッカー部担当

荒木成真　今回の取材を通じて、選手や監督の方々に取材するためのアポの取り方や様々な工程を学ぶことができ、良い経験になりました。

男子バスケ部担当

竹田颯汰　時間、日程調整などをするのが難しかったですが、取材に応じてくれたみなさんのおかげで貴重な経験をすることができました。

福島七海　男子バスケ部の皆さんを通じてスポーツについて報道するという貴重な経験ができた。試合の中で最高の瞬間を狙って撮影することの楽しさや難しさを学んだ。

☆紙面編集　福島　七海
竹田　颯汰

スポニチ

スポニチ宅配版もどうぞ
または最寄りの毎日新聞販売店へ
申し込みはフリーダイヤル
読む人に一礼
0120・4612・10
24時間OK

あの興奮をもう一枚
プリントサービス好評発売中!!

◆コンビニでの購入方法◆

ローソン ファミリーマート	セブン-イレブン
マルチコピー機の液晶画面をタッチ	
	プリントを選択
コンテンツサービスを選択	コンテンツプリントを選択
eプリントサービスを選択	
地方紙・海外新聞・業界紙・専門紙を選択	
スポーツ紙を選択	
スポプリを選択	
購入する商品を選択	
商品内容を確認し購入を選択	商品内容を確認し次へ進むを選択
料金を投入しプリント開始を選択	料金を投入しプリントスタートを選択

ミニストップ、デイリーヤマザキ、セイコーマートでも購入できます